

すくわくプログラム推進事業実践報告書 2025年4,5月

所在地	東京都新宿区戸山1-21-1
施設名	しんじゅくいるまこども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

こいのぼりを飛ばそう（アートポン利用）

<テーマの設定理由>

- ・デジタルツールをつかって自分の作ったこいのぼりを形にする体験をすることで、自分のアイデアを形にする楽しさを味わう。
- ・こいのぼりを作ることで、こどもの日や日本の伝統行事に対する理解を深める。

2. 活動スケジュール

- ・4月中にこいのぼり制作を行う。
- ・こどもの日祭りで、全員の制作をアートポンで投影する。制作紹介も行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・iPad ・プロジェクター ・制作
（鑑賞する環境として）・フロアマット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・季節の制作として、5月中にこいのぼり制作を行う。
- ・こどもの日祭りで、全員の制作をアートポンで投影し、制作紹介を行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・こいのぼりの制作が泳いでいる様子を見て、「およいでる〜！」と言うように、驚きながらも興味を持って見ている。
- ・自分のこいのぼりがどこにあるか探していた。
- ・他児の作ったこいのぼりをみて、「色がきれい〜」「おもしろい〜」と興味を持つ様子が見られた。
- ・全園児が集まることで、年長児が年下の他児を気に掛ける様子が見られた。

【保育者の関わり】

- ・4月にこいのぼり制作をする際に、「どんなふうにごくかな？」と想像を膨らませるように関わった。
- ・作品紹介では、ランダムに選び紹介した。
- ・年長児の隣に〇、1歳児クラスの視聴スペースを作ることで、異年齢の交流が出来るようにした。

活動が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- アートポンに自分のこいのぼりが投影されると、子どもたちは一様に嬉しそうな表情を見せ、指をさしたり、周囲に知らせたりしていた。「見て!」「わたしの!」といった声が自然と出ていた。「自分が作ったものが大きく映し出される」ことへの喜びが、年齢を問わず子どもたちの自信につながっていた。
- 「これは〇〇のこいのぼり!」と自分なりに意味づけして発言する子が増え、自己表現の芽生えが感じられた。投影された映像を見て、指を差したり、飛び跳ねたりする姿もあり、各々の方法で喜びを表していた。
- 待機場所を、0歳児と5歳児を隣にするなど工夫したことで、異年齢の関わりが見られた。